

●第2回有識者懇談会発言要旨

資料2

2017/11/28

【有識者懇談会】			
No.	発言者	発言内容	対応方針
1	小磯委員長	域内連関が強靱化計画の目標になっているが、練れていない感じが少しある。人々と人々、いざという時に、ひとりで判断し行動するのは不可能なので、その時にいかに地域の中で色々な形で結び付き、繋がっていくかということを盛り込むべき	P 1 3、基本目標の3番目 「域内連関」の共有による、信頼でつながる地域社会の実現と地域経済の自立的発展を 人と人がつながる、災害に強い地域社会・地域経済の実現 に修正
2	金子委員	一人ひとりの市民に対してメッセージを発信するのであれば、わかりやすい噛み砕いた表現でやっていく事が大事	P 5 4以降、施策プログラム内に「脆弱性評価」の要点を記載する
3	畑委員	域内連関というのは地域のコミュニティー、人とのつながりが出来上がっていないければ、組織立っての部分は出来ない。地域町内会などのコミュニティーの脆弱さが出てきているのであれば、そこを再構築するという、基礎の基礎をまず重点的にやっていたかなければいけない。	P 2 9に脆弱性評価として町内会への加入促進を追加 P 6 4の施策プログラムへも反映
4	(高橋委員)	1-2火山噴火・土砂災害と1-3津波災害では多数の死傷者の発生と表現している。他の部分では多数という言葉が無く、表現が強い	多数という言葉を削除
5	鈴木委員	地域防災活動、防災教育の推進に係る市民に対する意識の醸成が難しい。独居老人などへの丁寧な周知の方法を具体的に示したほうが良い。	P 2 9、町内会への加入促進の項目において、地域ぐるみでの防災や減災へ向けた取り組みへの支援の必要性を記載
6	畑委員	脆弱性の分析・評価のところは、リスクの項目がこれだけ沢山あるので仕方ないのかと思うが、読みやすくなる工夫が何かできることはないのかと感じる。	施策プログラム内に「脆弱性評価」の要点を記載する
7	小磯委員長	釧路の計画なので、石炭技術を継承していく事が広い意味でのバックアップ機能になるし、釧路にとっても大事なことだというメッセージをつなげてほしい。	P 3 8 【4-1-3】多様なエネルギー資源の活用 を 【4-1-3】地域の特性を生かしたエネルギー資源の活用 に変更 また、P 7 2、北海道バックアップ拠点構想の推進に係る施策プログラムで 石炭技術継承について記載
8	小磯委員長	非常時に役に立つけれども、平時においてもより効果が高いもの、そういうものを優先的にやるべき。道の駅は、普段色々なかたちで観光客に情報を出している。道の駅に行けば何か情報があるという平時の意識が、非常時に行けば何か情報があるのではという意識に通じる。	P 2 9 【1-7-3】観光客、高齢者等の要配慮者対策 を 【1-7-3】観光客に対する情報伝達体制の強化 【1-7-4】高齢者等の要配慮者対策 に分割 また、観光客に対する情報伝達体制の強化として、 P 2 9、P 6 5に道の駅における情報発信機能の強化を記載